



大画面屏風で日本画鑑賞5・6年 10/21



5・6年生を対象に、福井県立美術館が所蔵する、菱田春草の最高傑作「落葉」の精巧な原寸大(幅7m)レプリカを用いた対話式の美術鑑賞会(県文化振興課の方による出前授業)がありました。



鑑賞の感想

「写真 A4 判と違い、本物はとても大きいので同じ絵でも全然ちがう。」
「大きい屏風なのに、絵はとても細かい。」
「最後の作品で、春草さんは身体も目も悪くなっていたそうだから、こんな大きな絵を描くのはとても大変だったと思う。」
「家の中でも秋を楽しめる。」

昔の日本では、西洋のように額に入れて絵を鑑賞せず、屏風やふすまや扇子など普段使うものに絵を描いて楽しんでいました。日本画の伝統的な描き方を変えた、岡倉天心の弟子でもある菱田春草の大画面屏風で、今日は日本画のよさ、屏風のダイナミックさ鑑賞することができました。

(この屏風のレプリカだけでも50万円は下らず、県立美術館所蔵の本物は、美術館の一番のお宝で時価数千万?1億?とも言われているそうです。)